

磐城平城



はじめに

「^{いわ き たいらじょう}磐城平城」は、本市の歴史を語る上で欠かせない存在です。近年、本丸跡地の公園整備が進み、その過程で新たな遺構が発見されるなど、再度、注目を集めています。

当館では、磐城平城の関連資料を所蔵しているほか、これまでも様々なテーマで展示を行ってきました。今回は、それらの過去の展示資料も用いながら、改めて磐城平城について紹介します。

また、いわき市考古資料館の協力により、「江戸時代のいわきと磐城平城」連携事業として、貴重な考古資料を展示いたします。

本企画展は、所蔵資料等を通し、地域の歴史を知り、いわきのこれからを考えるきっかけとなることを目的に開催します。

いわき市立いわき総合図書館



^{いわ き たいらじょう}

磐城平城とは

磐城平城は、江戸時代、現在の JR いわき駅北側にあった城郭です。関ヶ原の戦いの後、磐城平藩の藩主となった^{とりいただまさ}鳥居忠政が、徳川家康から東北の外様大名（関ヶ原の戦い以後に徳川氏の家臣となった大名）に備えるよう命じられ、12年の歳月をかけて築城したといわれています。

城郭は本丸を中心に二ノ丸、三ノ丸、その他の^{くるわ}曲輪（石垣や堀で囲んだ区画）などが組み合わせられてできており、いわき市^{たいらあざきゅうじょうせき}平字旧城跡・^{ろっけんもん}六間門・^{たまち}田町などの広範囲に及びます。石垣はあまり作らず、天然の崖（標高 30-40m）を利用し、天守を作らず^{やぐら}櫓で代用している点は、東日本の城によく見られる特徴です。

^{けいおう}慶應4（1868）年の戊辰戦争で落城し、現在は本丸跡地と周辺の石垣、^{たんござわ}丹後沢（内堀の一部）にその名残を留めています。

磐城平城は、いわき地方の政治的支配の拠点であっただけでなく、地域社会の経済・文化の中心地として大きな役割を果たしました。また、戊辰戦争の際には戦いの場になるなど、日本全国の視点から見ても、歴史的に重要な城であるといえます。

「城絵図」とは、城郭の曲輪の配置、周辺の地形などを描いた絵図です。著名なものに、^{しょうほう}正保元（1644）年に幕府の命令により全国的に統一した決まりで作成された「^{しょうほうしろ}正保城絵図」などがあります。

磐城平城の城絵図は、江戸時代の初期から幕末まで、多くの時代にわたり、多数の絵図が残されているのが特徴です。その中には、県や市の文化財として登録されているものもあります。

それぞれの絵図からは、城の姿や特徴、移り変わりなどを見ることができます。

製作：^{げんぶん}元文2（1737）年4月～^{えんきょう}延享4（1747）年8月（推定）
大きさ：縦118cm×横184.5cm ※展示（複製）103cm×160cm
特徴：色分けがされており、当時の土地利用の区分などがひと目でわかる。

内藤氏が藩主の時代に描かれたと推定される絵図。

表に「原氏」、裏に「嘉永□□、於江府表求之 原氏」と記載がある。

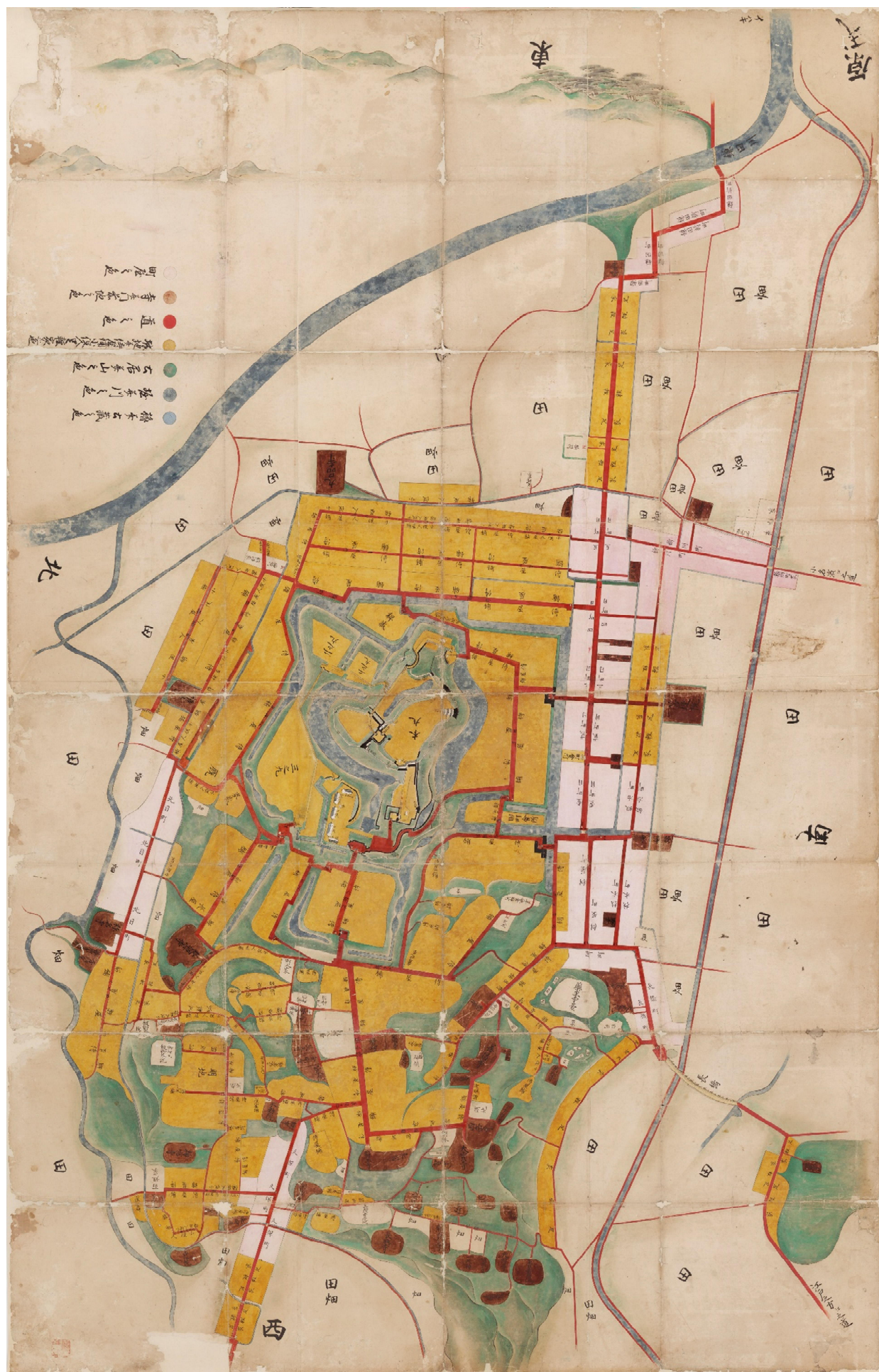
水色	櫓・土蔵
濃紺色	堀・川
緑色	土居・山
橙色	城地・侍屋敷・小役人・足軽家
赤色	道
茶色	寺・門前地
薄桃色	町屋

絵図を見るポイント

城は本来、戦いのための防御施設ですが、本丸には^{まつりごと}政を行う^{おもてごてん}表御殿や城主が暮らす^{おくごてん}奥御殿が置かれ、権威の象徴となっていました。

敵の攻撃を防ぐための工夫がわかるポイントに、次のようなものがあります。

- 本丸を囲む多くの櫓と門、^{へい}塀。
- 出入口は^{ますがた}枡形（侵入してきた敵を狙い撃ちにできる）
- 周りに複数の曲輪、石垣と崖、二重に巡らせた堀。
- 周囲に家臣の侍屋敷。下級武士と足軽の家はその外側と主要道路の入口。
- 寺社は城の南西部に多く、町の周りど道路の入口にも配置。
- 町屋は城の南側に東西で走っている浜街道沿い。
- 浜街道は東・西の出入口で複雑に屈折。
- 北に好間川、東に夏井川、南に新川が流れ、西は丘陵続き。



磐城平城絵図（いわき総合図書館所蔵）

石垣や堀で囲んだ一区画のこと。

磬城平城は、本丸・二ノ丸・三ノ丸・^{おおでぐるわ}大手曲輪・^{おおでそとぐるわ}大手外曲輪・^{えんしょうぐるわ}塩硝曲輪・^{みずのてぐるわ}水之手曲輪・^{みずのてそとぐるわ}水之手外曲輪・^{すぎだいらぐるわ}杉平曲輪・^{ないきぐるわ}内記曲輪・^{たまちぐるわ}田町曲輪で構成されていました。



櫓は、門と共に城の重要な防御施設として機能していました。物見（見張り）、戦時の際の射撃場所、武器の倉庫、門の開閉を知らせる時報など、その役割は櫓によって様々です。

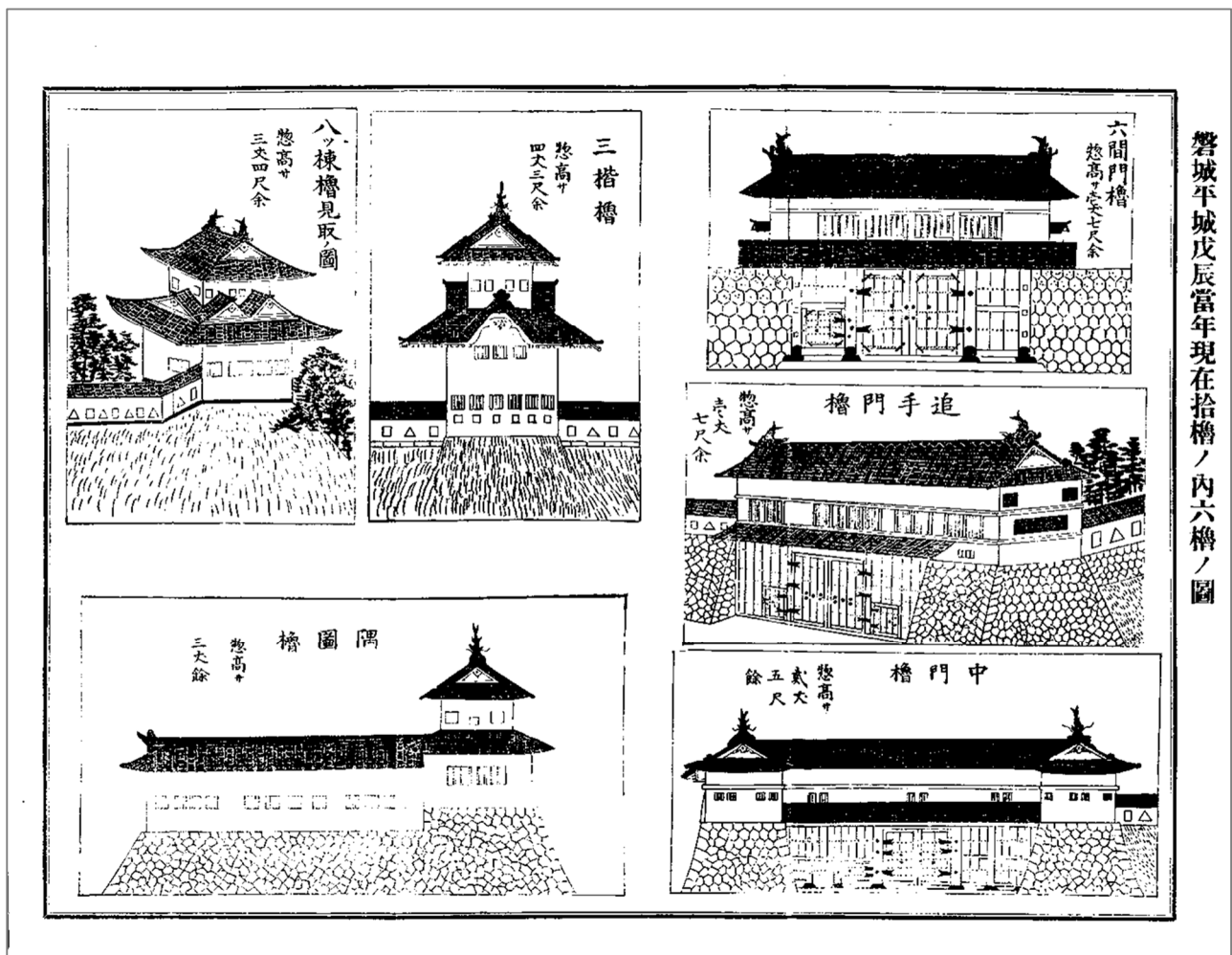
磬城平城には天守がなく、代わりに^{さんかいやぐら}三階櫓が城のシンボルとなっていました。これは將軍の城（江戸城）に遠慮して、あえて天守を建築しなかったといわれています。

「磬城平城絵図」にも、三階櫓がはっきりと描かれています。また、^{あじおかのかた}磬城平藩士・^{ぼしんしき}味岡礼質が記した『戊辰私記』（明治36(1903)年刊）には、三階櫓をはじめとする6つの櫓の図が描かれています。

※「三階櫓」は当初は三重三階の櫓でしたが、内藤氏時代に二重三階の櫓に変わったと考えられています。



「磬城平城絵図」に
描かれた三階櫓



磐城平城戊辰當年現在拾櫓ノ内六櫓ノ圖

『戊辰私記』より「磐城平城戊辰當年現在拾櫓ノ内六櫓ノ図」



ぬしやぐら
塗師櫓石垣 (令和7 (2025) 年10月撮影)



ちゅうもんやぐら
中門櫓石垣 (令和7 (2025) 年10月撮影)

城の中心となる本丸に置かれた建物で、「藩主やその家族の住居」「政治を行う場所」「年中行事などの儀式の場所」の3つの役割がありました。

令和2（2020）年の発掘調査で本丸御殿の基礎や礎石が見つかったほか、南側には庭園が広がっていたことがわかりました。

城の周囲に掘られた溝のこと。水をたたえた「水堀」は、敵の侵入を防ぐ防御の役割はもちろん、湧水の処理や物流などにも重要な施設でした。磐城平城の場合、本丸を囲む内堀と、二ノ丸・三ノ丸・内記曲輪・田町曲輪を囲む外堀で構成されています。

内堀の一部だった丹後沢^{たんござわ}には、「磐城平城を築く際、自然の沼を貯水池として拡張しようとしたが、何度も決壊してしまった。そこで、丹後という老人が人柱になり、水害を防いだ。この老人の名前にちなんで、『丹後沢』という名前をつけた」という言い伝えがあります。

また、令和6（2024）年には、公園整備の工事中に本丸と水之手曲輪を区画している「白蛇堀^{はくじゃぼり}」跡が発見されました。

発掘調査・磐城平城のこれから

磐城平城の周辺では、学校の敷地拡張、住宅の建築や公共事業などの際に、発掘調査が計20回ほど行われています。いわき総合図書館のある「ラトブ」建設の際にも調査が行われ、外堀跡の一部や陶磁器・荷札木簡などの遺物が見つかっています。

また、市は令和元（2019）年10月に「(仮称) 磐城平城・城跡公園基本計画」を策定。整備にあたって行われた調査等では、本丸御殿跡や白蛇堀跡と思われる遺構が発見され、市民の関心を集めました。

公園は「文化交流ゾーン」「歴史伝承ゾーン」「自然散策ゾーン」の3つのゾーンから成り、令和8（2026）年春のオープンを予定しています。

新聞記事（上）：「いわき民報」令和2（2020）年9月8日 1面

新聞記事（下）：「いわき民報」令和6（2024）年5月21日 11面





知っておきたい 磐城平藩主

※すべて譜代大名（関ヶ原の戦い以前からの徳川氏の家臣）

鳥居氏 【^{けいちよう}慶長 7（1602）年～^{げんな}元和 8（1622）年】

藩主：忠政

^{しもうさのくにや は ぎ}下総国矢作（千葉県香取市）から移り、最初の磐城平藩主となりました。忠政の父・^{もとただ}元忠は、関ヶ原の戦いの前哨戦、伏見城の戦いでの激戦の末、亡くなっています。

忠政は磐城平城と城下町を建設する一方、領内の検地を実施するなど領国支配体制を整備しました。

元和 8（1622）年に^{でわのくに}出羽国山形（山形県山形市）に国替えとなりました。

内藤氏 【^{げんな}元和 8（1622）年～^{えんきよう}延享 4（1747）年】

藩主：政長・忠興・義概・義孝・義稠・政樹

^{かずさのくにさぬき}上総国佐貫（千葉県富津市）から移り、6代にわたり江戸時代前半期の磐城平藩を治めました。

内藤氏の時代には、家臣や領民に関する詳細な法令の制定や、^{おがわえすじ}小川江筋・^{あいやえすじ}愛谷江筋といった水路の開削が行われたほか、俳諧を中心とした文化活動も盛んでした。

また、この頃、領地を分け、^{ゆながや}湯長谷藩・^{いずみ}泉藩が誕生しました。

延享 4（1747）年、^{ひゅうがのくにのべおか}日向国延岡（宮崎県延岡市）へ国替えとなりました。

井上氏 【^{えんきよう}延享 4（1747）年～^{ほうれき}宝暦 6（1756）年】

藩主：正経

^{ひたちのくにかきま}常陸国笠間（茨城県笠間市）から移り、磐城平藩の藩主になりました。

井上氏は、名門譜代大名として幕府の要職を務め、それに伴い国替えを繰り返しています。磐城平藩主となった正経も^{おおさかじょうだい}大阪城代（幕府の役職のひとつ。大阪城主である将軍に代わり、大阪城を預かる）に任ぜられ、わずか 10 年で磐城平藩を離れました。

安藤氏 【^{ほうれき}宝暦 6（1756）年～^{めいじ}明治 4（1871）年】

藩主：信成・信馨・信義・信由・信正・信民・信勇

^{みののくにかのう}美濃国加納（岐阜県岐阜市）から移り、7代にわたり磐城平藩を治めました。

5代目藩主・信正は江戸幕府の老中（現在の総理大臣）を務め、諸外国との交渉や、朝廷と幕府を結びつける^{こうぶがつたいさく}公武合体策に対処した人物です。

戊辰戦争では現在の東北と新潟の各藩が結成した^{おううえつれっぽんどうめい}奥羽越列藩同盟に加わり、新政府軍と戦いました。磐城平城は3回にわたり攻撃を受け、落城。その後、明治政府による^{はいほんちけん}廃藩置県により、江戸時代の大名の行政組織であった藩は廃止されました。

◆◆◆関連資料◆◆◆

『図説日本城郭大事典 第1巻』	平井 聖	日本図書センター	2000	R/521.8/ズ'-1
『日本城郭大系 第3巻』		新人物往来社	1981	K/521/ニ
『いわき市史 第2巻』	いわき市史編さん委員会	いわき市	1975	K-210.1-1-イ-
『いわき市史 第9巻』	いわき市史編さん委員会	いわき市	1972	K-210.1-1-イ-
『磐城平城文献等調査報告書』	いわき市教育文化事業団	いわき市	2022	K-210.5-1-イ-
『平城跡』(いわき市埋蔵文化財調査報告) 平城跡(2006)、平城跡(2008)、平城跡3、平城跡4、平城跡5	いわき市教育文化事業団	いわき市教育委員会		K-210.2-1-イ-
『磐城平城跡塗師櫓調査報告』(いわき市埋蔵文化財調査報告)	いわき市教育文化事業団	いわき市教育委員会	2025	K-210.2-1-イ-206
『磐城平城絵図等調査報告』	いわき地域学会	いわき市	1996	K-210.5-1-イ-
『東北の名城を歩く 南東北編』	飯村 均	吉川弘文館	2017	K-291-メ-
『いわき市の文化財』	いわき市教育委員会	いわき市教育委員会	2017	K-709-イ-
『地図からいわきの歴史を読む』	鈴木 貞夫		2002	K-210.0-1-ス-
『図説 城と石垣の歴史』	鈴木 啓	纂修堂	1995	K-521-ス-
『武者たちの舞台 下巻』		福島民報社	2007	K-521-ム-2
『いわき人(ピット) Vol.3』	いわき未来づくりセンター		2003	K-051-イ-3
『(仮称)磐城平城・城跡公園基本計画 令和元年10月』	〔いわき市都市建設部公園緑地課〕	いわき市	2019	K-518-イ-
『(仮称)磐城平城・城跡公園基本計画 改訂版 令和4年6月』	〔いわき市都市建設部公園緑地課〕	いわき市	2022	K-518-イ-

地域資料パスファインダー『磐城平城』に関する資料の探し方」

「いわきデジタルミュージアム」 <https://iwaki-museum.com/> ※磐城平城の絵図などが閲覧可能
「いわき民報」

※「磐城平城絵図」や歴代企画展・常設展の配布資料、「パスファインダー」は、図書館ホームページでも公開しています。 <https://library.city.iwaki.fukushima.jp/>

展示協力：中山 雅弘 氏(いわき市教育文化事業団 特任研究員)

考古資料協力：いわき市考古資料館

令和7(2025)年11月7日 発行

■編集・発行 いわき市立いわき総合図書館

令和7年度 後期企画展「知っておきたい 磐城平城」

■会期 令和7(2025)年10月28日(火)-令和8(2026)年5月24日(日)

■会場 いわき総合図書館5階 企画展示コーナー

